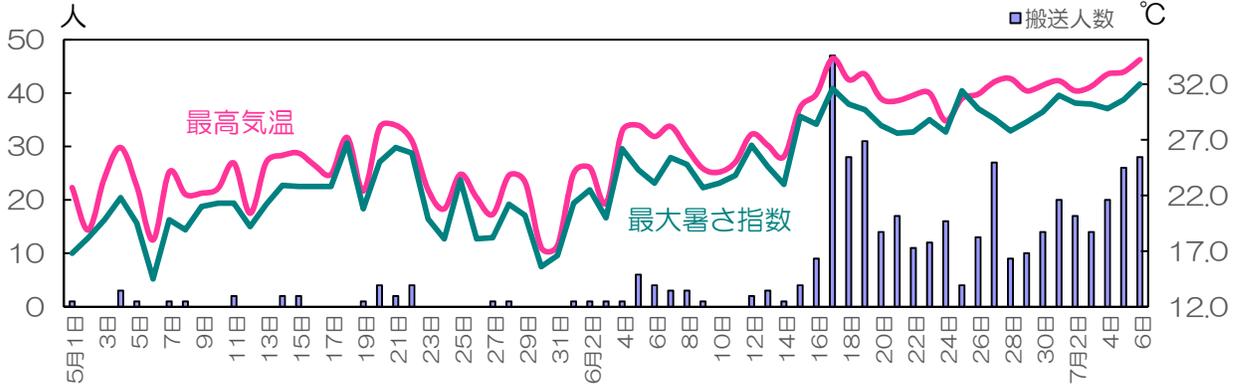


熱中症情報

<搬送数>

令和7年5月1日～7月6日までの搬送数（消防局データを使用）は、計444人（5月26人・6月293人・7月125人）でした。6月17日は、搬送数が46人/日と、期間内で最多を記録しました。6月25日以降、最高気温が30℃を超える真夏日が続き、搬送数も増加傾向です。



熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。

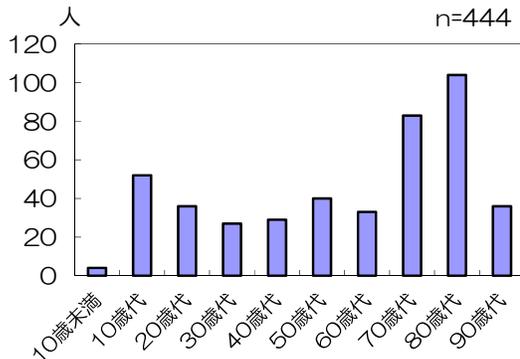
気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

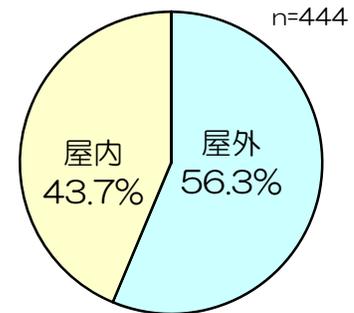
<年齢別>

80歳代が104人（23.4%）で最も多く、次が70歳代で83人（18.7%）でした。



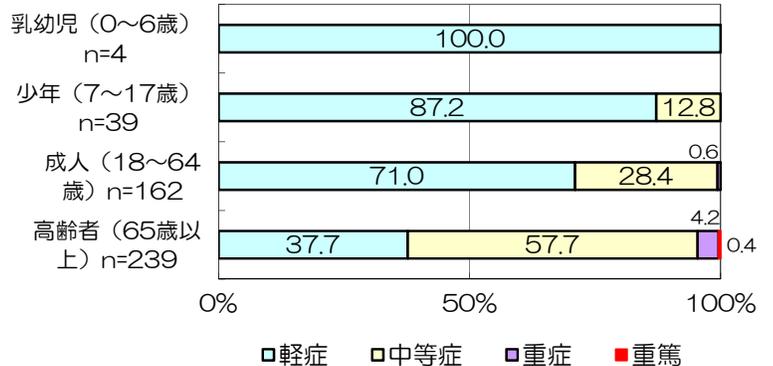
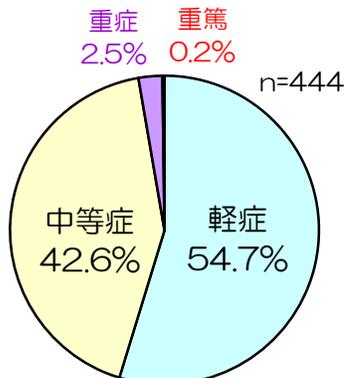
<発生場所>

屋外56.3%、屋内43.7%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度*>

軽症54.7%、中等症42.6%、重症2.5%、重篤0.2%でした。高齢者で中等症以上の割合が62.3%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。